

色彩とコミュニケーション(全6回)

第1回:見出しの色でスムーズに内容を伝える

執筆:坂本 邦夫(フォルトゥナ)

多くの場合、Webサイトの目的はサイトオーナーのビジネスの目的を成功させるために存在します。そのためにはビジネスの特徴や具体的な内容、価格などをわかりやすく伝えなければなりません。今回は見出しの色を整えて、内容を早く伝える方法についてまとめてみました。

見出しを見てから本文を見る流れを作る

新聞や雑誌などを思い出してもらおうとわかりやすいのですが、まず記事の見出しを見て内容をざっと把握し、その上で詳細を読むというのが、情報を得るための一般的な流れです。小説のように先が読めないおもしろさがあれば問題ないでしょうが、ビジネス目的で短時間に情報を伝えたいのであれば、見出しをきちんと見せる色が非常に重要になります。

見出しをきちんと見せるためには、その後続く本文の色との差を付けることが最も重要です。同じ大きさで同じ色の文字であると、どれが見出しであるのかを認識しにくいいため、本来伝えるべき本文に視線を進めにくくなるのです。

帝国劇場のオペラ

哀愁の詩人ミュッセが小曲の中に、青春の希望元気と共に銷磨し尽した時この憂悶を慰撫するもの音楽と美姫との外はない。曾てわかき日に一たび聴いたことのある幽婉なる歌曲に重ねて耳を傾ける時ほどうれしいものはない、と云うような意を述べたものがあつた。

わたくしが帝国劇場にオペラの演奏せられるたびたび、殆毎夜往きて聴くことを楽しみとなしたのは、二十余年前笈を負うて遠く西洋に遊んだ当時のことが歴々として思返されるが故である。ミュッセの詩に言われた如く、オペラはわたくしに取っては「曾て聴きおぼえのある甘く優しき歌」である。当時わたくしは猶二十七八歳の青年であつた。然るに今や老年と疾病とはあらゆる希望と気魄とを蹂み躪ろうとしてゐる。此の時に當つて、曾かつて夜々紐育に巴里にまた里昂の劇場に聞き馴れた音楽を、偶然二十年の後、本国の都に聴く。わたくしは無量の感慨に打たれざるを得ない。

見出しのわかりにくい文章は読み進めにくい

見出しと本文で差を付ける方法

文字の大きさを変える

文字の大きさを変えることは、色が使われる面積を変えるということです。色は大きいほどその効果は高まりますので、無理に色を変えずとも、大きさをしっかりと変えるだけでも、本文と差を付けることはできます。

帝国劇場のオペラ

哀愁の詩人ミュッセが小曲の中に、青春の希望元気と共に銷磨し尽した時この憂悶を慰撫するもの音楽と美姫との外はない。曾てわかき日に一たび聴いたことのある幽婉なる歌曲に重ねて耳を傾ける時ほどうれしいものはない、と云うような意を述べたものがあつた。

わたくしが帝国劇場にオペラの演奏せられるたびたび、殆毎夜往きて聴くことを楽しみとなしたのは、二十余年前笈を負うて遠く西洋に遊んだ当時のことが歴々として思返されるが故である。ミュッセの詩に言われた如く、オペラはわたくしに取っては「曾て聴きおぼえのある甘く優しき歌」である。当時わたくしは猶二十七八歳の青年であつた。然るに今や老年と疾病とはあらゆる希望と気魄とを蹂み躪ろうとしている。此の時に當つて、曾かつて夜々紐育に巴里にまた里昂の劇場に聞き馴れた音楽を、偶然二十年の後、本国の都に聴く。わたくしは無量の感慨に打たれざるを得ない。

文字の大きさにしっかり差を付けるだけでも目立たせることはできる

文字の色を変える

文字の色を変えるのも、基本的な見出しで差を付ける簡単な方法です。目立たせたい時によく使われるオレンジや赤は非常に目立つ色なのですが、背景色との差が小さく、実は内容が把握しにくいことがあります。特に本文の文字の色がしっかりした色である場合、本文が大きな黒の固まりのように感じられ、分量の少ない色の付いた見出しが負けてしまうのです。

帝国劇場のオペラ

哀愁の詩人ミュッセが小曲の中に、を慰撫するもの音楽と美姫との外はな婉なる歌曲に重ねて耳を傾ける時ほどものがあつた。

わたくしが帝国劇場にオペラの演奏しみとなしたのは、二十余年前笈を負思返されるが故である。ミュッセの詩「曾て聴きおぼえのある甘く優しき歌であつた。然るに今や老年と疾病とはる。此の時に當つて、曾かつて夜々紐を、偶然二十年の後、本国の都に聴くい。

目立つが内容を理解しにくい見出し

本文の黒の固まりの方が強く感じられる

読みにくい見出しは情報を伝えるという効果を低下させる

文字が薄いかどうかは個人によっても差があるため、富士通カラーセクターなどのツールを使い、客観的に読みやすいと考えられる色を選ぶようにします。

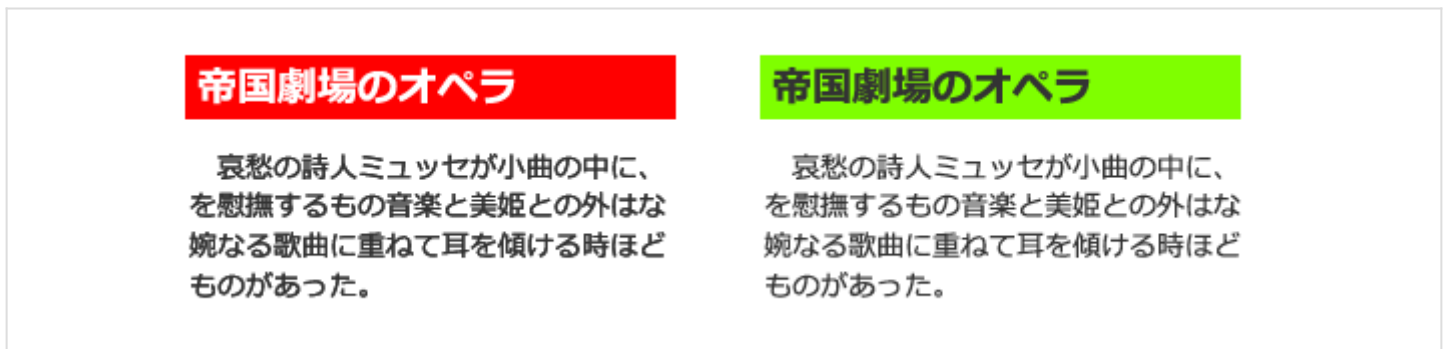


富士通カラーセレクターによるチェック結果と見出しの改善例

読みにくい見出しは、その後続く本文の価値をも下げてしまいます。検索エンジンなどから訪問したユーザーはある程度あなたのWebサイトに興味を持っていると考えられますので、無理に目立たせるのではなく、しっかり読めることを優先させましょう。

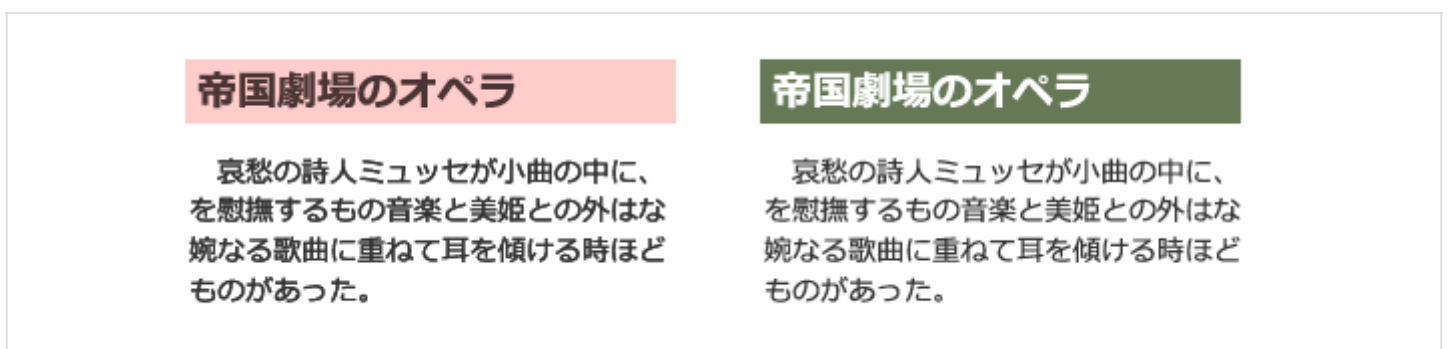
背景の色を変える

また背景に色を使うことでも見出しを目立たせることができます。この場合、文字の色を変えるよりも色の面積は格段に大きくなりますので、あまり強い色の背景にすると、今度はにぎやかすぎて周囲との調和が取りにくくなります。



強すぎてガラガラして見える見出しの例

大きく色を使えば、薄い色でも十分に本文と差を付けられるため、控えめな背景色としっかり見える文字色を最も重要な見出しに使うことで、スムーズに見出しから本文への視線移動をさせることができます。



控えめな色でも大きく使うことで十分目立たせることができる

1ページ内に大見出し、中見出しのように複数の種類の見出しが含まれる場合には、大見出しは背景色を使い、中見出しは色を変えるように差を出すと、文章の色はまとまります。

文章の読みやすさについては、[みんビズ制作講座:デザインカスタマイズ 第9回](#)にも記事がありますので、合わせて読んでおきましょう。



坂本 邦夫(さかもと・くにお)

カラー&Webデザイン フォルトゥナ 代表

<http://www.color-fortuna.com/>

1973年、大阪府東大阪市生まれ。関西大学文学部史学地理学科卒業。

2004年、色彩に関するノウハウをまとめたウェブサイト「基礎からわかるホームページの配色」を公開。以後、Web制作コンサルティングを主な業務としながら、書籍や雑誌などへの寄稿・セミナーなどで、ウェブにおける色彩環境の向上を使命として活動。日本色彩学会正会員。

主な著書に『ウェブ配色 決める! チカラ - 問題を解決する0からスタート

ホームページ配色入門』(ワークスコーポレーション)、『ウェブ配色コーディネートカタログ』(技術評論社)など。